

第10回「日本鉄道賞」の受賞者について

【日本鉄道賞】

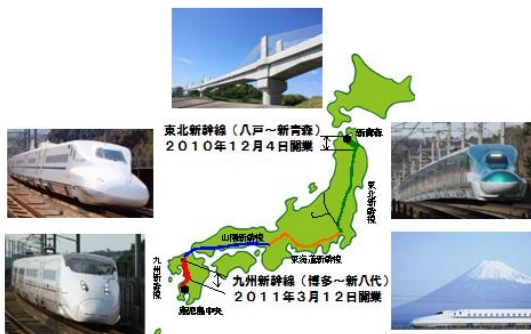
◎ 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 東日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社（神奈川県横浜市、東京都渋谷区、愛知県名古屋市、大阪府大阪市、福岡県福岡市）

「新幹線でつなげよう、日本！～新青森・鹿児島中央間全通～」

（選考理由）

昭和34年の東海道新幹線の着工以来52年の歳月を経て、昨年12月に東北新幹線が新青森まで開業し、本年3月に九州新幹線が全線開業したことにより、青森から鹿児島までが新幹線で結ばれました。世界最長の複線断面の陸上トンネルである八甲田トンネル（26.5km）等を高度な技術力により建設したこと、新型高速車両の開発導入、山陽・九州新幹線の直通運転開始などが大きく寄与し、大幅な所要時間の短縮と沿線地域の発展に大きく貢献したことが評価されたものです。

新青森から鹿児島中央まで新幹線が全通！



【主な取組内容】

- ・高度な技術による新幹線建設
世界最長の複線断面陸上トンネル「八甲田トンネル」など
- ・新型高速車両の開発・導入
東北新幹線「E5系」
東海道・山陽・九州新幹線「N700系」
- ・山陽・九州新幹線の直通運転開始
改良型「N700系」による直通運転
- ・新幹線と連携した地域活性化
地元と連携した観光開発
新幹線駅へのP&R駐車場の整備



◎ 東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

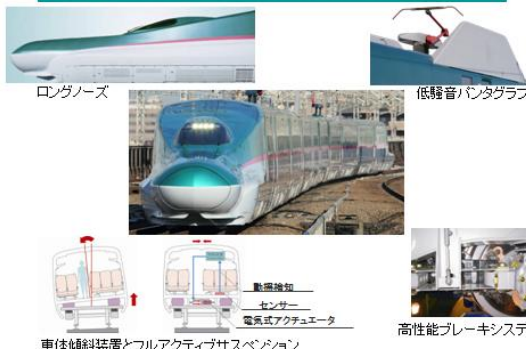
「国内最高速320km/h走行へ向けて最先端の技術を結集し、最高峰のお客さまサービスを実現したE5系新幹線電車」

（選考理由）

車両の先頭形状をロングノーズタイプとした走行時の騒音低減、フルアクティブサスペンションと車体傾斜装置による快適性の向上、ブレーキシステムの改良等により、国内最高速となる320km/h運転を可能としました。併せて、新幹線では初めてのグレードとなるGranClass（グランクラス）を導入し利用者満足の向上を図ったことが評価されたものです。

走行性能と信頼性、環境性能、快適性のすべてを高いレベルで融合させた新世代の新幹線E5系

特別なゆとりとおもてなしを提供する新たなグレード「グランクラス」



GranClass

質感の高い素材や居心地のよい照明により、今までの鉄道車両にない上質で洗練された空間を実現しました。



【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

◎ 日本貨物鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「緊急石油列車が被災地の燃料不足解消に貢献！」

（選考理由）

本年3月の東日本大震災により東北地区の鉄道や製油所が大きな被害を受けたため、石油が大きく不足する事態となりました。このため、関係事業者の協力を得て、京浜地区から普段は運行しない日本海側の路線や磐越西線等を使って、盛岡や郡山にタンクローリー車に換算して約3千台分の石油を運び、被災地の復旧に貢献したことが評価されたものです。

緊急石油列車が被災地の燃料不足解消に貢献



◎ 東北鉄道協会、東日本旅客鉄道株式会社東北工事事務所、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、株式会社ジェイアール総研エンジニアリング（宮城県仙台市、宮城県仙台市、神奈川県横浜市、東京都国分寺市）

「「よみがえる鉄路（東日本大震災からの復旧・復興）」～東北の中小鉄道事業者等を支えた鉄道技術者集団と東北ローカル線復興支援キャンペーン～」

（選考理由）

本年3月の東日本大震災により大きな被害を受けた中小鉄道事業者等に対して、高度な鉄道技術を有するJR東日本東北工事事務所、鉄道・運輸機構、ジェイアール総研エンジニアリングが、震災直後から現地入りし、被災状況の把握や復旧工法等を指導し、早期復旧・経費の削減等が図られました。また、東北鉄道協会は、中小鉄道事業者の復旧・復興支援イベントを開催し、沿線の被災者を勇気づけるとともに、ローカル鉄道の意義、魅力を多くの地域住民等に訴えたことが評価されたものです。三陸鉄道など未だ復旧途上の鉄道もありますが、一日も早い復旧・復興を心から願う気持ちも込めて、特別賞に選考されました。

【表彰選考委員会による特別表彰】

〔日本鉄道賞表彰選考委員会 えきまちプロデュース賞〕

◎ 西日本旅客鉄道株式会社（大阪府大阪市）

『大阪駅が“まち”になる。OSAKA STATION CITY』

（選考理由）

本年5月、大阪駅北地区の開発に先駆け、関西・大阪の玄関口として「OSAKA STATION CITY」という名の新しい“まち”が誕生しました。開発にあたり、「大阪駅が“まち”になる」をコンセプトに、憩いの場となる広場や回遊性を高める通路の整備、コンコースの拡幅やバリアフリー施設の増設等を行い、駅の利便性や快適性を向上させるとともに、地球環境への取り組みを充実させ、南北双方の駅ビルを新たに開発するなど、関西に駅を中心とした新たな賑わいを創出させたことが評価されたものです。



〔日本鉄道賞表彰選考委員会 ローカル線客招きアイデア賞〕

◎ 和歌山電鐵株式会社・貴志川線の未来をつくる会（和歌山県和歌山市）

「日本一心豊かなローカル線」になるため、開業年度から、熱意と創意工夫で、地域のシンボルとなるよう、多彩なイベント等を開催し、地域と一体となった運営を続けています。」

（選考理由）

平成18年4月に南海電鉄から引き継いだ貴志川線について、継続的に地元住民や自治体、学校、商工会等とともに利用促進策について検討し、動物駅長の先駆けとなる「たま駅長」の任命や、「おもちゃ電車」を始めとする地域のシンボルとなる車両を多数導入、また、年間70回にも及ぶ多彩なイベントの実施など、地域と一体となり、様々なアイデアにより集客に努め、鉄道運営を続けていることが評価されたものです。



〔日本鉄道賞表彰選考委員会 路面電車活性化賞〕

◎ 熊本市交通局（熊本県熊本市）

「利用しやすい市電を目指して（九州新幹線全線開業に向けての取組み）」

（選考理由）

本年3月の九州新幹線全線開業に向けて、道路中央にある軌道を歩道側に寄せる「軌道のサイドリザベーション化」を全国で初めて本格的に実施するとともに、JR新水前寺駅との乗り継ぎ円滑化、路面電車優先信号システムの導入、軌道敷の緑化、市電運行系統の名称の変更など、利用しやすくわかりやすい市電を目指して、路線全体の活性化を実施したことが評価されたものです。

